



4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元の意向の変化等

4 - 1 費用対効果分析

S 6 1 年度事業採択時及び平成 1 1 年度に行いました投資効率の結果は、

1 . 4 2

それぞれ 1 . 1 2、1 . 1 1 でした。現時点での費用対効果分析結果は、2 . 2 1 となりました。

本県は、県独自にアクセス環境の向上便益の算出を行っており費用対効果分析に影響しています。

4 - 2 地元の意向

伊賀 7 市町村間の生活面、文化的な交流の促進につながることから、地元から大変要望の強い事業です。

5 コスト縮減の可能性や代替案立案の可能性

5 - 1 コスト縮減

道路工事で発生した伐採木や根株をチップ化し、法面緑化材として再利用で 7 , 4 0 0 千円（廃棄物として処理費が必要）、残土の再利用で 1 1 0 , 0 0 0 千円（工事現場近くのは場床上げに利用）を縮減しました。

5 - 2 環境対策

道路側溝に生物が落ちた場合にはい上げられるような設備を計画しています。

5 - 3 代替案

特になし

再 評 価 の 経 緯

当事業は、平成 1 1 年度に答申された再評価審査委員会の意見に対する対応を次の通り行っています。

- 1 県民に農業外の効果を含めて客観的に説明できる評価方法の確立に努めること。  
公共事業評価システムにより農業外の効果を算定しています。

事 業 主 体 の 対 応 方 針

三重県公共事業再評価実施要綱第 3 条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱第 5 条第 1 項に該当すると判断されるため当事業を継続したいと考えている。